

【公表】事業所における自己評価総括表

事業所名	児童ルームたちキッズ永岡			
保護者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日			
保護者評価有効回答数	対象者数	24名	回答者数	22名
従業者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日			
従業者評価有効回答数	対象者数	7名	回答者数	7名
総括表作成日	令和6年11月1日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・拡充を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に 行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・経験豊富な専門職が従事している。	・保育士、児童指導員、言語聴覚士などを常勤で配置し、常に療育の質が落ちないように工夫をしている。	・配置のみでなく、より専門性を高めるため、積極的に会議や研修等を実践していきたい。
2	・習熟度に合わせた療育支援（聴覚・ビジョントレーニング等）を行っている。	・一人一人に合わせた、療育プログラムを実施し、きめ細かな支援を行っている。	・保護者へ分かりやすい説明を心がけ、また定期的にお伝えができるよう、工夫していく。
3	・自立支援や日常生活の充実のための活動を日々取り入れている。	・季節に合った行事を取り入れ、また活動を通して、日常生活での動作の習得や集団生活への適応に向けた支援を行う。	・学校通常日でも可能な限り取り入れながら、様々な経験を通して成長できるよう心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組みや 工夫が必要な点等
1	・ペアレントトレーニングの機会が少ない。	・個別に対応する事例はあるが、事業所側から発信する機会が少ない。	・日頃より事業所側がペアレントトレーニングを意識し、今後保護者交流会などを活用し、その機会を検討していく。
2	・地域交流の機会が不十分である。	・利用者の安全確保や交流先での事故防止の観点など、十分なサービス提供が行えない事により参加が難しい状況であった。	・地域施設や公共機関等と連携し、地域交流の機会や経験が制限されないよう、積極的に交流を図っていく。
3	・療育スペースが十分に確保できないことがある。	・利用者の高学年化が進んでおり、利用状況によって異なる事もあるが、運動内容によっては、狭いと感じることがある。	・構造的な問題である為難しい部分もあるが、グループ分けを行い、できるだけ活動の制限がかからないよう支援していく。